（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	子育てサポートどんぐり			
○保護者評価実施期間	R8年　1月　13日	～	R8年　1月　30日	
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○従業者評価実施期間	R8年　1月　13日	～	R8年　1月　30日	
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	8	（回答者数）	8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年　2月　12日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	活動プログラムが固定化されないよう工夫している。	年間計画を基に、月計画を立て、ねらいに即して、計画を立てながら、その中で、子ども達が楽しめる内容や輝ける場面、他者や集団への関わりを持てるように考慮しながら作成しています。	子ども達の楽しい！を前提に計画しながら、職員間で話し合って、よりよい活動内容になるように取り組んでいきます。また、子どもの状況によっては、活動を変え、子どもに合わせた活動にも取り組みます。
2	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができている。	送迎時の直接の会話、お帳面への写真付き記載、TEL等、複数の手段で保護者と情報共有に努めています。	更に、話しやすい環境を整えながら、保護者と一緒に子どもの成長を見守っていけるように努めていきます。
3	保護者同士、きょうだい同士も一緒に交流する機会を設けている。	行事の中で、親子で楽しめる内容だけでなく、保護者同士で交流できる場を作ったり、きょうだいも一緒に遊べる環境設定や遊びを考えたりしています。	行事を通して、保護者同士の交流する時間を設けているが更に機会が増えるように取り組んでいきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流や保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会が少ない。	・公園で一緒になることもあるが、それぞれの活動内容や時間が違うため、交流の機会が少ない。 ・地域住民への呼びかけ（避難訓練時のチラシ配布等）を始めたが、まだ浸透していない。	・避難訓練時の近隣住民への呼びかけチラシ配布を引き続き実施し、地域に開かれた運営を目指していきます。 ・地域の子どもとの交流機会は難しいが、地域の方々との交流を引き続き大切にしていきます。
2	設備が、バリアフリーになっていない。	構造上、難しい所がある。	建物も古く、構造上、バリアフリーではないため、安全に過ごせるように、建物の定期的な点検やヒヤリハットを活用しながら、危険要因を減らしていきます。
3	家族支援プログラム（ペアレントトレーニング等）の未実施事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会の機会等が設けられていない。	ペアレントトレーニングを実施するにあたり、職員配置や時間など難しいところがある。	引き続き、行事を通しての情報提供・交流の場づくりと、個別の相談対応を継続していきながら、今後、ペアレントトレーニングなどの研修会の開催可否を検討していきたい。